

科 目		必・選	担 当 教 員		学年・学科		単位数	授 業 形 態					
第2外国語AⅠ（ドイツ語） 2 nd Foreign Language AⅠ (German)		選択	吉田芳弘		4 年生 物質工学科		3	通年 前期週 4 時間 後期週 2 時間					
授業概要		ドイツ語の初級文法教科書を使い、文法解説と発音練習を行ない、練習問題を解く。「動詞の活用」や「時制」等の重要事項については、各課の小項目で学習した後、項目全体のまとめを随時行う。											
到達目標		ドイツ語によるコミュニケーション能力（とりわけ読解力）の基礎を身に付けるために、基本的な文法用語の意味を理解し、教科書としてまとめられているドイツ語の初級基本文法の6割程度を最低習得する。（D） また日本語と英語に加えてドイツ語の文法を学習することで、言葉の背後で言葉を成立させている法則性の存在について意識できるようになることも、あわせて目標とする。この能力は、今後第3の外国語を学習する必要がある場合に有用となる。（D）											
評価方法		4回の定期試験(70%)および授業中の小テスト(30%)で評価する。 評価に際しては、前期／後期において授業時間数が異なるため、授業時間数の割合（前期：後期＝2：1）に応じて平均を行なう。											
教科書等		『身につくドイツ文法（Leicht）』（郁文堂）											
内 容									学習・教育目標				
第 1 週	ガイダンス、ドイツ語とドイツ語を使う国々、アルファベットと単語の発音							D					
第 2 週	第1課 動詞の現在人称変化（規則変化）							D					
第 3 週	第2課 名詞と冠詞の格変化							D					
第 4 週	まとめ①「動詞の変化と名詞の変化」							D					
第 5 週	第3課 名詞の複数形、人称代名詞							D					
第 6 週	まとめ②「名詞の性・数・格」							D					
第 7 週	第4課 動詞の現在人称変化（不規則変化）、命令法							D					
第 8 週	第5課 定冠詞類、不定冠詞類							D					
第 9 週	定期試験の返却と解説、第6課 前置詞							D					
第10週	まとめ③「ドイツ語の文中の定形の位置（1）」							D					
第11週	第7課 話法の助動詞、未来形、非人称動詞							D					
第12週	第8課 分離動詞と非分離動詞、接続詞							D					
第13週	まとめ④「ドイツ語の文中の定形の位置（2）」							D					
第14週	第9課 動詞の3基本形、過去人称変化							D					
第15週	まとめ⑤「動詞の変化について（3基本形の変化と人称変化）」							D					
第16週	定期試験の返却と解説、第10課 現在完了。再帰表現							D					
第17週	第10課 現在完了。再帰表現							D					
第18週	第10課 現在完了。再帰表現							D					
第19週	まとめ⑥「時制」							D					
第20週	第11課 形容詞の格変化							D					
第21週	第11課 形容詞の格変化							D					
第22週	第12課 形容詞と副詞の比較変化、ZU不定詞							D					
第23週	第12課 形容詞と副詞の比較変化、ZU不定詞							D					
第24週	定期試験の返却と解説、第13課 関係代名詞、指示代名詞							D					
第25週	第13課 関係代名詞、指示代名詞							D					
第26週	第13課 関係代名詞、指示代名詞							D					
第27週	第13課 関係代名詞、指示代名詞							D					
第28週	第14課 受動態							D					
第29週	第14課 受動態							D					
第30週	第14課 受動態							D					
(特記事項)			JABEEとの関連										
教科書第15課「接続法」は、5年生の「第2外国語AⅡ」で学習する。			JABEE	a	b	c	d1	d2a) d)	d2b) c)	e	f	g	h
			本校の学習	A	B	C-1	C-1	C-2	B	B	D	C-3	B
			・教育目標								○		

1. 合格ラインについて、特に記載の無いものは、60点以上を合格とします。

2. 定期試験について、特に記載の無いものは、評価配分を均等とします。（【例】年4回定期試験を実施した場合の各定期試験の評価配分は、特に記載の無いものは、25%ずつになります。）

〔第2外国語A I（ドイツ語）〕ガイダンス

ドイツ語を含めたヨーロッパの諸言語は、文中にある動詞の語形を変化させることで、主語と動詞の関係や文の時制を明示します。（皆さんが既に学習している英語も勿論ここに含まれます。だから英語で習ったような文法上の出来事が、ドイツ語を習うときにも出てきます。例えば英語では、**I am a teacher.** と **You are a student.** というように **be** 動詞は主語に応じて語形を変化しましたし、**You were a student.** というように、過去を表すための動詞の形がありました。）また名詞も、それ自身やその付加語の語形を変えることで、主語なのか目的語なのかと言った文中での名詞の役割を明示します。（例えば英語では、同じ「私」でも **I love you.** と **She loves me.** というように、主語のときと目的語のときとでは名詞は形を変えました。）このように名詞や動詞などの様々な品詞のいろいろな語形の変化を学習して、その機能を知ることが、文法の学習の要となります。

動詞の変化に関しては第1課、第4課、第9課を中心に学習し、主語に応じて動詞がどのように変化するかを見ます。また動詞／助動詞の変化と密接にかかわりのある時制については、第1課、第7課、第9課、第10課を中心に学習します。

文中での名詞の役割を明示するための変化に関しては、名詞だけではなく、冠詞や冠詞類さらには形容詞が関係しますが、これらの変化を第2課、第3課、第5課を中心に学習します。

動詞と名詞の変化がわかると、ドイツ語の文の概要は理解できます。さてこのような文が2個以上集まって複雑な文となることもあります。文と文とをつなぐ単語が接続詞です。これを学習するのが第8課です。

以上がドイツ語文法の要となる部分の学習ですが、英語で習ったような「前置詞」という品詞や「受動態」といった文もドイツ語にはあり、それぞれの課で学習します。（1年間で学習する文法の内容は、英語の文法で言うと、概ね中学校3年終了程度の内容です。）

英語の学習がそうであったと思いますが、どうか**真面目にコツコツ勉強**してください。90分×45回＝67.5時間という限られた時間ではありますが、簡単なドイツ語であれば必ず分かるようになります！ **がんばりましょう。**

教科書『身につくドイツ文法〈Leicht〉』各課 (Lektion) の内容

- 第1課 動詞の現在人称変化（1）
- 第2課 名詞と冠詞の格変化
- 第3課 名詞の複数形・人称代名詞
- 第4課 動詞の現在人称変化（2）・命令法
- 第5課 定冠詞類・不定冠詞類
- 第6課 前置詞
- 第7課 話法の助動詞・未来形・非人称動詞
- 第8課 分離動詞と非分離動詞・接続詞
- 第9課 動詞の三基本形・過去人称変化
- 第10課 現在完了・再帰表現
- 第11課 形容詞の格変化
- 第12課 形容詞と副詞の比較変化・ZU不定詞
- 第13課 関係代名詞・指示代名詞
- 第14課 受動態
- 第15課 接続法